

# 令和 6 年度自己評価結果公表シート

作成 キッズステーションしょうぐんの

## 1、本園の教育目標

にこにこ すくすく いきいきと育つ子ども

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・オープン保育やコーナー遊びを取り入れ、保育者同士で連携しながら保育を進めていく。
- ・乳幼児理解を深め、計画性をもって環境を構成し、子どもの動きに応じて再構成し、それをまた、次の保育へとつなげていく。
- ・保育者各自の研修を重ねるとともに、さらに園全体の資質向上のため、研修したことを他の保育者伝えたり、発信したりしていく。

## 3、評価項目の達成および取り組み状況

	評 価 項 目	結 果	取 り 組 み 状 況 の 反 省
学 園 の 重 点 項 目	保育目標の具現化に向け、学園独自の研究（運動・音楽リズム・劇・絵画造形）を総合的に取り入れ保育を計画・実践している。	B	積極的に各自研修を深め、それを全体に伝えていく時間を設けたことで、一人の研修がみんなのものへと広がっていった。また、それぞれの保育者の得意分野を活かしての保育を展開することができた。 計画性の部分に関しては、さらに高めていきたい。
自 園 の 重 点 項 目	指導計画に基づいて、乳幼児が主体的に関わりたくなるような環境構成をし、生活がより豊かになるように活動の展開に応じて環境を再構成している。	A	認定こども園になるためのサポート事業の中で改めて、子どもの発達に応じて環境を構成していく大切さを学んだ。保育者のアイディアを活かし、手作りの遊具や玩具を多く取り入れた環境の中で、子どもたちの創造力も伸びた。
	乳幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえてティーム保育を展開する。	A	少人数での話し合いを毎日設け、それを全体に伝達していけるような体制を作ったことで、連携して保育を進めていくことができた。一人の園児のことを全職員が共通理解しながら保育にむかえた。

#### 4、学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

結果	理 由
A	こども園になるためのサポート事業の中で、教育・保育要領の本を見たり、指導案や記録の在り方を見直したりと大きな学びとなった。また、行事や日々の保育の中で、保育者同士が相談し合いながら、環境を変化させ、子どもたちとの生活を楽しんでいた。

※3，4の評価結果の表示方法

【A】…十分達成されている。【B】…達成されている。【C】…取り組まれているが、成果が十分ではない。

【D】…取り組みが不十分である。

#### 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
発達に応じた環境づくりと安全への配慮	発達の個人差に応じた環境設定と保育者の関わり方を探っていききたい。特に、支援が必要な子への対応の仕方に関しては、月1回の話し合いの場を設けていく。個の成長につながる応答的な関わり方と、安全を守り保育していくための保育者の連携の在り方を学んでいきたい。
認定こども園としての交流となめらかな接続	認定こども園としての1年目となるので、未満児としての生活の在り方をもう一度見直すとともに、幼稚園舎に進級した園児との交流や、保育者間の情報交換を密にしながら過ごしていきたい。